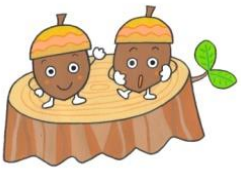

子どもの森づくり通信

（発行：ＮＰＯ法人子どもの森づくり推進ネットワーク）

JP子どもの森づくり運動
参加園月例会報
（2017年3月号）

〒146-0082 東京都大田区池上１－3－４　tel:03-5755-3213　fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net　　mailto:info@kodomono-mori.net

「ＪＰ子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

大分暖かくなってきました。もうすぐ春。
ＪＰ子どもの森づくり運動10年目の活動が始まります。

（目次）

１．ＪＰ子どもの森づくり運動 2017年度の活動について
２．全国集会＆研修会2017レポート
３．事務局からのお知らせ
　●新・どんぐり博士の育苗講座（2017年３月号）

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「ＪＰ子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」運営体制

・運　　営　：ＮＰＯ法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
・特別協賛　：日本郵政グループ
・後援/協力

（公社）全国私立保育園連盟　　（公社）大谷保育協会
（公社）国土緑化推進機構　　ＮＰＯ法人Ｃ・Ｃ・Ｃ富良野自然塾
（一社）日本森林インストラクター協会　　ＮＰＯ法人自然体験活動推進協議会
ＮＰＯ法人MORIMORI ネットワーク　　（一社）日本オート・キャンプ協会
（株）実業之日本社　月刊ガルヴィ編集部　　保育環境研究所ギビングツリー

１．ＪＰ子どもの森づくり運動 2017年度の活動について

2017年度、ＪＰ子どもの森づくり運動（以下、運動）は10年目を迎えます。子森通信１月号と２月号で、活動の主旨と活動をふり返りました。それをふまえて、事務局では、2017年度、下記の３つの行動目標を掲げ、皆さんの活動をサポートしてまいりたいと思います。同時に、わたしたちは、この機会に運動の原点に戻りたいと思います。 あらためて、**「“樹を植えて、子どもの心を育む”という活動の理念は、保育者に、そして子どもたちに本当に届いているのか。」**さらに、**「活動の仕組みと方法は、保育の現場で本当に役立っているのか」**を問い直し、2017年度１年間をかけて**「理念（コンセプト）の磨き上げ」**と**「方法の改善」**に取り組み、10周年を迎えたいと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

１）地域での活動の活性化

参加園が、それぞれの地域で“どんぐり”を拾い、育て、植える地域での活動は、運動の基盤です。2017年度、下記のポイントでサポートを強化し、活動の活性化を目指します。

①プログラムの改善
　より参加しやすく、意義ある内容にプログラムを改善します。

②参加園相互の交流促進
　ブロック単位の研修会、交流会を積極的に開催し参加園相互の交流を促進します。

③地域での植樹フィールド探しを確保します。
　幼児期の子どもたちの活動に協力的な自然体験フィールドの全国ネットワークづくりに取り組み、植樹フィールドとして参加園に情報提供します。

２）「東北復興グリーンウェイブ」活動の深化と展開

①岩手県山田町「東北の“どんぐり”の植え替え活動」
　これまで、山田町の苗畑に植えられ、育てられてきた苗木が地元の森に植え替えられます。植え替えられる森は二つ。「“しいたけ”の森」と「牡蠣の森」。それぞれ、“どんぐり”の苗木が森を豊かにし、被災地の復興産業に具体的に役立ちます。

②2016年に引き続き、福島県「霊山三育認定こども園」の園庭の緑の再生活動を積極的にサポートします。

③岩手県宮古市をはじめ、横展開を積極的に推進します。

３）10周年記念事業の実施

①幼児期の生物多様性学習プログラム集の作成
　21世紀を生きる子どもたちに必須となる生物多様性学習のオリジナルプログラム集の作成に取り組みます。

②“どんぐり”の母樹のルーツを訪ねる調査活動の実施
　生物多様性学習の一環として、筑波大学との協同で、“どんぐり”の母樹のルーツを訪ねる調査活動に参加します。

③10周年成果物の作成
　これまでの活動をとりまとめ、10周年成果物としてお届けします。

２．ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2017」レポート

2017年２月14日（火）、15日（水）の両日で、JP子どもの森づくり運動の参加園が年に一度全国から集い、交流を深める「全国集会＆研修会2017」が開催されました。新しい出会いや提案がうまれ、今年も大変意義ある会合となりました。以下に開催風景のレポートをお届けします。詳細はホームページをご参照下さい。

【主催者あいさつ】広島市私立保育園協会松尾理事長

【問題提起】岩手県山田町「三心会」合同発表

【活動発表１】「山本まごころ保育園」植田園長

【活動発表２】「保育所みのり祇園」荒木園長

【ワークショップ】子森ネット塚原インストラクター

【環境講演】広島大学大学院　中越教授

【防災講座】消防庁アドバイザー　鎌田氏

【記念撮影】

３．事務局からのお知らせ

１）参加者募集：アウトドアディジャパン「森育講座」

ＪＰ子どもの森づくり運動では、今年も、2017年4月8日（土）、9日（日）に、「代々木公園」イベント広場にて開催される国内最大のアウトドアイベント「アウトドアデイジャパン東京」に出展します。
９日（日）には、11:00～、14:00～の２回、森育講座として、代々木公園での「森の色を探そう」を開催します。インストラクターは、チームビルディングファシリティターの塚原さんです。昨年、大好評だった講座です。
参加者数に限りがありますので、事務局宛、事前の予約をおススメします。
春の一日、ご家族で参加されませんか。

２）ご提案：「東北の“どんぐり”の苗木を見送る会」開催

今年も「東北グリーンウェイブ」の植樹会が、５月22日「グリーンウェイブ」の日に岩手県山田町にて開催されます。その日に向けて、全国の参加園では、子どもたちが育ててくれた東北の“どんぐり”を「“どんぐり”の絆BOX」によって、山田町に送っていただきます。その際、子どもたちに活動における大切なことを記憶してもらうために、「東北の“どんぐり”を見送る会」の開催をご提案します。東北に帰って行く“どんぐり”の苗木を見送る活動によって、参加園の子どもたちは、被災地の子どもたちのことを想い、“どんぐり”の絆を実感してくれるでしょう。

●新・どんぐり博士の育苗講座（2017年３月号～“どんぐり”の発芽について～

前回の講座では、春の育苗スタートに向けて、苗の芽吹きとどんぐりの発芽をまとめてお話ししました。今回は、その中でも時期が遅いどんぐりの発芽について、もう少し詳しく述べたいと思います。

どんぐり博士：河内和男（子森ネット森林インストラクター）

とても感謝すべきことに、子どもの森づくり運動の活動に参加してくださる保育園、幼稚園、こども園の数は増え続けています。この春、初めてどんぐりの発芽を体験される園も多数あり、その皆さんの、感動体験のお手伝いを、この紙面を通して今年もできることをとても光栄に感じます。

初めて発芽を迎える際は、期待より不安が大きくなるようですね。そこで、いつ発芽するのかを的確に示して、心配する期間が少しでも短くなるようにしたいと思います。

どんぐりの発芽に最も関わる条件は気温です。日中の気温が２０℃近くまで上がる日が続くようになると、発芽するどんぐりが増えます。平年であれば、西日本から南関東では、４月中旬から４月下旬に発芽のピークを迎えます。次に北関東・甲信越・南東北では、４月下旬から５月初旬ころ、さらに北東北以北や標高の高い地域では、５月中旬以降になる可能性もあります。ただこの季節は気温変動が大きいので、平年と大きく異なることもあります。特に、例年より寒い場合、発芽を気長に待たなければならなくなります。また、どんぐりごとの個体差も大きく、遅いものでは地域にかかわらず、６月に発芽するものもあります。

自然は、我々の思い通りには進まないものです。結局、心配の種を増やしただけかもしれませんが、どんぐりの発芽を通して、子どもたちと素晴らしい体験ができるはずです。もう少し、楽しみにお待ちください。